令和6年度 南九州市男女共同参画審議会 議事録

■日時 令和6年10月24日（木） 午後1時30分～

■場所 知覧庁舎 本館2階 委員会室

■出席者 （委員） 大隣 初美 会長

（以下名簿順）末原 貴子，内田 智賀子，高江 京子，網屋 多加幸，
安山 久美子，岩崎 泰依，田之上 弘輔，瀬川 知香

（事務局）田原 博 まちづくり推進課長，諏訪下 夏海 共生・協働推進係長
田原 紳太郎 主事

■欠席者 今村 大地，中村 秀実

1 開 会

会議の成立宣言

2 男女共同参画を取り巻く状況

3 審議会の役割説明及び令和5年度南九州市男女共同参画経過報告

（事務局）説明

（会長）ただいまの事務局の説明に対し、委員の皆さんから質問等ございませんか。

（A委員）電話相談のDVですが、DVと言っても単なる暴力だけでなく経済的、精神的とか色々ありますが、それも含めたDVということですか。資料にある金銭というのは経済的DVということなのか。

（事務局）悩み相談、電話相談と銘打っていますので、男女共同参画関係だけでなくあらゆる相談が入ってきます。だからといってうちでは違います、ではなく一通りお話を伺いし、市役所内の然るべき部署にお繋ぎするという一連の流れになっていますが、ここで書かれているDVというのは、夫婦喧嘩の激しいものがあって妻の方が恐怖を感じたという事で電話が来ましたので精神的なDVの側面もあり、DVに関する相談というふうに分類しております。

それ以外の介護から下についてはご近所トラブルから金銭の悩みなどが相談に入ってきますので、それぞれ長寿であれば長寿介護課、健康であれば福祉健康課に繋ぐという対応をさせて頂いております。

4 協 議

(1) 南九州市男女共同参画基本計画二次評価について（令和5年度分）

（事務局）説明

(会長) 皆様の方からご質問等ございませんか。

(B委員) 即答でなくても結構です。評価項目24の「若手農業者研修は中止となった」とあるが、中止となった理由・経緯を後日主管課に確認してお知らせください。後継者育成の観点からも大切な取り組みだと思いますので。

(事務局) かしこまりました。

(A委員) P24の評価項目33ですが、「政策立案がない為アンケート未実施」とあるが、主管がどこかわかりませんが政策立案がないという事はどのような形で立案されていくのか考えがあるのですか。このままないままで終わっていくという感じですか。

(事務局) ここに関しては何か新しい計画を立てる時に、実態調査を実施した場合にこの項目が出てきて、実態調査をする際に男女共同参画の視点がきちんといかされているかとか、万遍なく調査対象が拾えているかという視点で、そこをクリアしていれば評価が高くなり、男女共同参画の視点がいかされていなければ低くなってくると思いますが、昨年度に関しては新しい事業や施策の為に行った実態調査がありませんでしたので実績なしという報告になっています。

(C委員) P33の不妊治療に対してですが、南九州市全体を見ても子供が減っているという事は結婚してもそれに悩んでいる親が凄く多いと捉えてしまう。見えない方がたくさんいらっしゃる。もしかしたら不妊治療をされている方が増えているのかもしれない、と思うのでそういった所も支援をしていただきたい。

それとP35の199番、こども未来課もそのような取り組みをしているのですがそちらの方も記載してはどうかと思いました。以上です。

(事務局) 不妊治療については、私自身も以前保健センターで担当をしており古い情報ですが、ずっと不妊治療が保険適用外で経済的負担が非常に大きかった。国の方で保険適用にしようとなったが、そもそも高額な治療なので、若干負担は残る。経済的な負担とともに治療される方にとっては精神的負担もありますので、せめて経済的な負担が少しでも軽くなるよう、国の保険適用が始まった後も補助が終わりではなく引き続き助成を続けていく形になっています。また内容は確認しますが、重要な施策なので今頂いたご意見はもちろん国が充実したら市が手をおろすではなく、それ以外に市も出来る事があれば、施策を進めていくように情報提供として繋ぎたいと思います。ありがとうございます。

199番の学校教育課のこども家庭支援ですが、もともとの計画が出来たときに評価する事業項目としてあげていますので、あくまでも評価は事業項目、計画が立てられた時点の事業について評価していく形になります。もちろんここに掲載されていない事業で行っているものもあります。今年新しく「こども未来課」ができ、子育て世代

やお子さんの事について特化して力をいれてやっていきたいと思いますという事で今一生懸命取り組みを行っていると思います。ここに出てこない所でも頑張っているとは思いますが、ご意見があったという事でより一層力を入れるよう情報提供をしたいと思っています。

(A委員) P31今後の方向性・検討事項という事で、市役所内の連携がとれているということで、非常にありがたくていいことだと思いました。ただ、例えば警察との連携とか法務局、県の男女共同参画センターもありますが、その辺りの連携も、今もされているとは思いますが今後もさらに繋げて頂きたいと思っています。

私は人権擁護委員という立場でしていますが、その立場で言いますと法務局の中にも男女共同だけではなく子どもに関する事、それから高齢者、障害者に関する事、それぞれ委員がいて連携をとっていますので今後も是非つなげて頂きたい。これは要望です。よろしくお願いします。

それと確認ですが、デートDVとDV防止法がよく分からない。DV防止法によってこれまで家庭内の問題であったのが、警察も介入できるようになったという法律改正だったが、デートDV違うと思うがその辺を説明も含めてしていただけないでしょうか。

(事務局) デートDVがどういったものかということですか。

(A委員) そうですね。デートDVとDV防止法とは違いますよね。その辺りのその説明があった方が、デートDVとDVが何回も出てきますので整理してもらいたい。

(事務局) いわゆるDVというのが家庭内暴力であるとか、よく一般的に言われるのが夫婦間の暴力、パートナー同士の暴力という所ですが、デートDVというのが、若年層の間でも暴力、特に精神的なものも多いと言われてはいますが、監視とか、若い方は今スマホを使いますのでその中でお互いを縛り合ったりとか普通にお付き合いをしている中で暴力的な発言があったり、相手を貶めるような発言をしたり、そのようなものをデートDVというように分類しています。

デートDVに関しては、若い方が多くなっており、人とのお付き合いの仕方について未成熟な部分も多いので、それが当たり前関係であると初めてお付き合いをする中で捉えてしまったりするので、まずはそれが当たり前ではないと認識していただくことが大切になります。何かしらコントロールを受けたりであるとか、相手を束縛することが愛情ではないというのを県のリーフレットなどで啓発を行っています。デートDVをしてもいいと受け止める人がいるとそのまま大きくなっていき、結局は家庭を持ったときにDVに発展していくという事にも繋がりますので、非常に大事な取り組みであると考えています。

(A委員) 今言われたように大事な取り組みだと思います。それを含めて若年層である高校生、大学生、20代の社会人の方への取り組みは考えているのですか。

(事務局) 県から資料等がきた時はそれを提供するのはもちろんですが、先ほど福祉健康課の方で中学生に対する性教育を行っていますと申し上げましたが、令和4年度までは当課の出前講座でも同じ講師に中学校にお越し頂いており、性教育の中でもデートDVについても真摯に教えてくださる講師でしたので、中学生については段々周知がはかられていくのではないかと思います。高校は県立になりますので、高校から声が掛からないと実施できませんが、出前講座等について周知はしていきたいと考えています。

(A委員) 高校生の方もいずれは社会人になります。先ほど言われたように今後も情報提供をして頂きたい。南さつま市の鳳凰高校では、県の男女共同参画基礎講座に先生も生徒も来ていました。そういう情報提供も大事だと思います。よろしくお願いします。

(D委員) 資料のP22「女性リーダー等の人材育成にかかわる支援」ですが、非常に大事な、いい意味で追い風になっているかなと感じています。私自身0歳の娘がいてよく子育て支援センターに行きますが、30代40代の女性がたくさん来られていて話をします。産休育休が終わった後の仕事で帰る場所がないとか戻りにくいとか、少ないですがこの機会に起業してみたいという方もいる。市も女性リーダーをつくっていかうとか起業希望者への情報提供を行っているようですが、広報紙とかホームページだけではなく、例えば知覧の「つみき」で工作とか、親子遊びとかいろんな講座があるが、その一環で職業訓練に関連する情報提供する時間を持ったり、女性ですでに起業されている女性を講師に招いてお話し会とを実施するなど、ピンポイントに対象者がいるところに情報提供をするとさらに女性の能力開発とか、ネットワークが繋がっていくきっかけになるのではないかと思いますので、商工観光課だけではなく子育て関係の各課も連携して今ある講座を活用してもらいたいと思います。

(事務局) ありがとうございます。貴重なご意見で非常に参考になりますので、共有させていただきます。

4 協議

(2) その他

(会長) その他について審議委員の皆さまからありませんか。

(E委員) 全体に関わる事ですが、私は介護事業を展開しており、高齢者の方と関わる事も多い事もあり、人手不足にものすごく直面しています。これは福祉分野だけではないと思います。10年、15年前と比較すると少子高齢化が進んで労働人口の減少が激しい、ひしひしと感じました。午前中に指宿のミャンマーの方が日本語教室をしている所に伺って、面談をしてきました。外国人労働者というのは介護業界も本格的に活用をしていかないと、と実感したところです。多くの方と話したときに大体話題に出る

のが「人がいないか」「手伝いがいないか」ということです。南九州市も様々な活動をしてなんとか南九州市を盛り上げていこう、みんなでやっていこうというのを感じています。資料にあるこのDVとかハラスメントとか暴力的なものというのは、相談件数は1件とか2件ですが、潜在的件数というのは100倍だと思います。相談したいのに相談できない。第三者から見て相談する事案だと思うが、本人としては相談する事案までに至っていないと認識している。共依存というが、私がいけないからたたかれる、私がいけないから怒られる。そういう潜在的な方が結構いらっしゃる。個別に私に相談する方もいらっしゃいます。しかし、法律家ではないので出来る範囲は限られてくる。労働生産人口が減ってきています。少子高齢化になっています。働きたいのに働けないというのは、やはりそういう暴力的な理由によって阻害されている事も大きな問題だと思いますので、是非とも南九州市としてもDVハラスメント問題、重点項目にも入っていますが、もっと重点を置いてもいいと思います。先ほど言った女性リーダーの活躍の為には、必要な取組であると思います。まだ「女のくせに」と言っている人がいると思います。それも言葉の暴力だと思います。直に聞いたときは「それはやめましょうよ」、「意見を言うのは自由だと思いますよ」と言います。「話し方が上手じゃない」と言うが、伝わるか伝わらないかが大事だと伝えます。良いまち、住みやすいまち、みんなが「いい人生だった」と人生を終えられるまちづくりをしていく為にも、いろんな暴力をなくす、住みやすいまちづくりをやっていければと思います。

(C委員) 私も地域で赤ちゃんを育てながら働ける場所を作れないかと模索していて、働くなら保育園に預けるだけでなく、働く場所で、みんなで赤ちゃんを見守りながら子育てが出来たらというのを大事したいと思っています。そういった取組も支援をして頂けたらと思います。

(会長) 協力を惜しまないと思います。

(A委員) 南九州市の外国人どのくらいいるのか、3倍と言ったが人数が分からなかった。

(事務局) 2, 3ヶ月前の数字で672人、まだ増えているかも知れません。

(E委員) 5年後さらに2倍, 3倍だと思います。

(A委員) 4~5年前で外国人は500人でした。地域で生活していく上で支援がないと中々うまくいかないなのでその辺りは大事かなと思います。

あと、私も何回か経験したのが、DVを受けているのに受けていないと言ったり、(本人がDVであると)気付かない場合もありますし、お金を渡さない、妻のパートだけで生活して大変とか経済的DVなどでも離婚率が上がっていくのかな、とそういうことも気になっています。

あと、最近も市の職員が自殺しましたが、市内の自殺率などはどうなっているのか

気になります。精神的か分からないが。男のくせに、女のくせにがあるのか分かりませんが、男性の自殺率が高いというのを以前聞いたのでその辺も気になっているので教えて頂きたい。

(事務局) 自殺者に関しては福祉健康課で自殺対策に取り組んでおりますので、数字や状況を確認して先ほど頂いた項目もありますので、それとあわせて報告をさせて頂きたいと思います。

(B委員) 先ほどから外国人労働者の話が出ていますが、私のところは10年前から雇用しております、現在13人います。その中で10年前からトラブルは一切ございません。というのも受け入れる事業者がしっかり勉強して雇用する側として労働者をしっかり守る。来てくれる子ども達は自分の子どもという気持ちがないと、人ですからそこを受け入れる事業者はそういった勉強をする機会もありますので、そういった所に何回も何回も出向いて受け入れる側の資質などの勉強をして頂ければご近所トラブルとか労働者が孤立するとかなくなると思います。事業者さんには研修のことなどについてもお口添えをして頂きたい。人手が足りないからすぐに受け入れるではなく、事前に受け入れ事業者が何の為に受け入れるのか、そういった事も県のホームページに学習会の情報もありますので勉強して頂き、そこで働く子ども達も幸せに働ける。その子達は祖国にお金を送る事が一番の目的なので、受け入れ事業者が大切に雇用していく事が大事だと思います。

もう一つ、来月17日に映画上映を予定しているという事で、せっかくなので単体ではなく何か組み合わせたものが出来ればという話だったが、具体的じゃなくてもおぼろげにでも考えているということがあれば教えて頂きたい。

(事務局) まだ調整中ですが、毎年、長寿介護課で認知症フェスタを秋口に開催しております。ご高齢の方が対象なので中々集客が難しいという話があり、男女共同参画は男性女性、若い方、高齢の方、介護をされている方のすべてが対象となりますので、そういうところと連携できればお互いに対象者が広がるのではないかという話をしていきます。

(会長) 映画上映会に去年も多くの方がいらっしゃるので、その機会を活用しないと非常にもったいないと思います。事務局の提案に限らずここに来ている皆さんも何かこういったものがあるのではということがありましたら、是非事務局に提案して頂きたい。今年に限らず来年再来年につながると思いますので、ぜひ事務局にご一報をお願いします。

(A委員) 災害時の避難所についてですが、女性特有の問題があるので、審議をする場に女性の審議委員が確か1人しかいないので女性の審議委員を増やして欲しいとこの場だったか他の場だったか以前にも話をしたと思います。今後も災害については取り組んでいかないといけない。避難所については、女性のことに配慮しながらやっ

く方針もあると思いますが、その基である審議委員がほとんど男性の方なのでそれを増やす努力を県の方とかにもお願いするなどの取り組みをお願いしたいという事が一点。

実際の避難所開設の時の女性への配慮というもの考えて頂きたい。短期で済む場合もありますが、長期の時が特に問題なので、女性に対応するような避難所を利用していくとか検討していかないと難しいところがある。プライバシーの問題ももちろんあるし、それ以外にもたくさん課題はありますので、是非検討をして頂きたい。

(会長) 今のご意見に対しては私も非常に大事な事だと思っていますので、是非進んでいけるような協力をして頂きたいと思います。

(E委員) 提案です。こういった会議も大事ですが、自由雑談会みたいな形で会議ではない意見交換会もいいのではないかと思います。会議も大事だが、雑談会みたいな感じでお茶を飲みながら。市の方も一緒に入って話をすることで、市の方も気付けないアイデアが出てくるのではないかと思います。もし良かったら提案です。

(会長) 是非、実現していただければと思います。懇親会とか軽いところから入って行って、そこで色々な情報を頂きながらそれぞれの事業所に帰った時に色々な提案ができるという事があると思います。素晴らしい人材が集まって会が成り立っていく中でもつたいたいという気がしておりますので、凄くいい提案をありがとうございました。

5 閉会